



山林局ヲ並カレシ  
地理局長引継書



114  
A3848



内務卿之命令ニ依リ 従前地理局ニテ取扱候山林事務及現今景况後來見込共左之通概録及御引續候最諸簿冊圖書器械等者文書兼計算課長山下常名ヨリ御局主任ニ御文附為致度候也

明治十二年五月十五日 前地理局長櫻井 勉

山林局長櫻井 勉 殿

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

内務省

山林事務及現今景況

地理局山林課ニテ掌管セシ事務ハ従前分テ三部トス一部ハ全國ノ林政ヲ統理シ及右ニ属スル行政事務ヲ掌管ス二部ハ特ニ官林ニ属スル事務ヲ掌管シ三部ハ特ニ官有地及日本坑法第一章第三款ニ属スル坑物事務ヲ掌管ス

本来三部ノ事務ハ地籍課ニ属セシニ明治十二年一月内務卿ノ許可ヲ得テ山林課ニ属シタリ蓋維新以来官林減少恢復ノ策ナカルヘカラス且ヤ獨國ノ如キ官田林事務局ヲ置キ官地官林ノ事ヲ一局ニテ取扱ヒ佛蘭瑞典二國ノ如キ官林官地各自ニ事務局ヲ置テ之ヲ管ストイヘレ重モニ山林ノ繁殖ニ注意シ官地ノ播種スヘキ者ハ官林事務局ヲシテ之ニ着手セシムルノ例アルヲ以テ以テ許可

林區

ヲ請得タリシナリ爾來銳意事ニ從ヒ現ニ無木ノ官地ニ  
殖樹シ及殖樹セント謀リタル者既ニ數百箇所ニ及ハ  
トス

廣瀨ノ山林ハ一人ヲ以テ之ヲ掌理スヘカラサルカ故ニ  
理數人又ハ數十人ニ分任セサルヘカラス然レモ數人又  
ハ數十人ニ分任セシノミニテハ之ヲ統轄スヘカラサル  
カ故ニ理統轄ノ制ヲ立テサル能ハス此ニ於テ全國ヲ分  
テ六七區トナシ第一圖更ニ大區ヲ分テ四十八中區ト為シ  
第二圖中區ヲ分テ數十小區トナシ小區コトニ山林數箇又  
ハ數十百箇ヲ管轄セシメントス

六大區ノ別ハ山岳河海ノ通塞木材運搬ノ便否ヲ謀リテ  
之ヲ定ム伊豆以東常陸以西ヲ第一林區トス其伊豆全國  
ヲ舉テ第一林區ニ屬スルモノハ伊豆全國山林ハ總テ東

京ニ輸出スルノ習慣アリ遽割スヘカラサルヲ以テナリ  
磐城國及岩代國盤瀨郡以北ヲ第二大區トシ越後國及岩  
代國耶麻郡ヨリ西南加賀以東信濃國筑摩郡飛驒國大野  
郡以北ヲ第三大區トシ甲斐駿河以西勢濃以東信濃國伊  
奈諏訪二郡飛驒國益田郡以南ヲ第四大區トス其國ヲ割  
キタルモノハ皆運材ノ便ヲ謀ラサルヲ得サルヲ以テナ  
リ越前江和紀伊以西五畿山陰陽南海諸道ヲ第五大區ト  
シ九州二嶋ヲ第六大區トス九州二島ハ大政ヲ距ルヲ太  
ク遠クシテ一林區ヲ置サルヘカラス越若山陰ノ如キハ  
大政ニ遠キモ別ニ林區ヲ置テ要セス其他ハ總テ大政ニ  
水運スルニ便ナルヲ以テナリ然レモ山林事務未タ皇張  
セス民林ノ取締ニ及フヘカラスカ故ニ先ツ第二部ノ  
吏員ヲ派出シ官林ノ事ヲ督セシメ民林ニ至テハ漸次ニ

事務

着手セシテ希望シ既ニ規則草案ニ着手セリ

山林學校ノ設ケハ山林家ノ闕クヘカラサル所ナルカ故

ニ夙ニ山林學校ヲ設ケンヲ希望セリ然レモ校費教師

書籍器械等皆未ダ整備セサルヲ以テ假ニ樹木試驗場ヲ

東京ニ置キテ樹木培養ノヲ教ヘ木曾青森秋田ニ於テ

輪伐ニ着手シテ伐木運材ノ事ヲ試験且教示シ漸次篤志

ナル學生ヲ獨瑞諸國ニ留學セシメ其成業ヲ待テ山林學

校ヲ第一大林区真窪中林区靜岡縣下伊豆國天城山同大林区

二荒中林区栃木縣下野國日光山第三大林区北上中林区猪

縣陸中國鶯宿第四大林区東御岳中林区長野縣下信濃國木曾

山第五大林区熊野中林区堺縣下大和國大壘原第五大林区

矢野中林区高知縣下土佐國四十川第六大林区高千穂中

林区鹿兒島縣下日向國清滝山ノ七所ニ置キ其整理ヲ待テ

日光木曾兩山中ニハ特ニ理術諸科ヲ具備シタル山林大  
學校ヲ置ンテ企望セリ第三圖但苗學生派遣ノ項ハ既  
ニ内局ニ稟議シタルモ未ダ允可ヲ得サルナリ

養源林支沙林護水林障風林防潮林護候林招魚林ノ如キ

ハ規則ヲ設ケテ保護セサルヘカラス此ニ於テ官林ノ右

諸項ニ関スルモノハスヘテ禁伐林ノ名ヲ下セリト虽民

林ニ至リテハ未ダ一定ノ則アララス客歲中内局之ヲ憂ヒ

其規則調査ヲ命セラル此ニオイテ地方實際ノ具陳ヲ折

衷シ見込ヲ條陳シテ我カ内務卿ニ伺稟セリ

官林ノ統理ハ従前本局ニ於テ之ヲ為スモノトス故ニ調

査ノ為メニ局員ヲ派シ局費ヲ出シ監守ノタメニモ亦定

額金ヲ出シ其他伐木植付ノ如キ亦皆直チニ之ヲ為セリ

而シテ平時ハ多ク地方官ニ託シ之ヲ間轄セリ然レモ到

底直轄ニ歸スルニアラサレハ官林繁殖養護ノ均一ヲ得  
サルヘシト思考セシカ故ニ十一年度ニ於テ岐阜長野  
青森秋田四縣下ヲ直轄スルノ許可ヲ得タリ其他ハ將  
ニ漸ク以テ直轄ヲ請ハントス 第四圖 見合

直轄官林統理

直轄官林ノ統理ハ一二等屬一名 一二等屬ハ數出 張買ヲ兼掌ス 五六等屬

一名及助手數名ヲ派出シテ出張ノ事務ヲ掌ラシメ更

ニ監守人ヲ毎林如クハ數林ニ配置シテ之ヲ守ラシメ更

ニ巡視ヲ派出シテ區内ヲ巡察セシム

官林調査

官林調査ハ明治八年ヨリ着手セシニ西南ノ變動ト空費

ノ減殺トニヨリテ頗ル進歩ヲ妨ケタリ然レハ漸次着手

シ既ニ十分ノセラ了レタルカ故ニ久シカラスシテ其整

理ヲ告ルコトヲ得ヘシ 第五圖 見合

近來更ニ一歩ヲ進メ官林再調査ニ着手シタリ蓋官林初

度ノ調査ハ古來未曾有ノ大業ヲ數年間ニ速了セシカ故

ニ往々遺憾ナキコトヲ免レス是再調査ノ着手ヲ要スルユ

ヘシナリ此業ヤ金額餘リアリ好人ヲ得セシメハ數年ニ

シテ了レ得ヘシトイヘ氏金額足ラス好人亦得易カラ

サルカ故ニ耐久持重數十年ヲ以テ之ヲ完了スルコトヲ

希望セサルヲ得サルナリ再調査ノ目的分テ四項トス

一ヲ境界ノ改正トシニラ地積地圖ノ改正ニテ地質氣候

ノ改正四ヲ樹木多寡良否及植物帶ノ改正トス蓋本邦

林學ノ開クル未タ久シカラス一人ヲ以テ數業ヲ兼ルコト能

ハス故ニ首ニ境界ト等級トヲ改正シ次ニ測地家ヲ遣シテ

地積地圖ヲ改正シ次ニ地質兼氣象家ヲ遣シテ地質氣候

ヲ改正シ次ニ植物家ヲ遣シテ樹木ノ多寡良否及植物帶ヲ

改正セシメサルコト能ハス而シテ境界改正ハ各出張負事

新設  
林

務ノ繁緩ヲ謀リテ適宜之ニ著手シ其他ハ一人又ハ数人  
ヲレテ漸次ニ全國ノ官林ヲ巡行査定セシムルノ見込ナ  
リ現ニ第三項及第四項植物帯ノ調査ハ高島得三ニ  
命セシニ既ニ伊豆國ヲ了レ將ニ相模國ニ及ハントシ第二  
項ハ野口保三ヲ採用シ將ニ伊豆國ニ着手セシメントス  
新設林ハ従前官林ニアラサル地ニ種樹スルヲ云フ蓋官  
林ノ厄タル廢藩置縣ノ際ヲ嚆矢トシ勸農寮ヲ置キタル  
時之ニ繼キ士族授産ノ時又之ニ繼キ國內ノ良林多ク暴  
伐低賣ニ係リタリ令ヤ之ヲ補ハント欲ス新林ヲ設ルノ  
外ナントス此ニ於テ客歲三月請テ新設林調査ニ従事シ宮  
城福島岩手千葉諸縣ノ如キ地味肥良運搬便利ナルモノ  
多クハ之ヲ新設林中ニ組込タリ其他ハ將ニ漸ヲ以テ之  
ヲ舉ントス 第六圖  
見合

官林  
景况

本年五月十五日ノ現調ニヨルニ官林ノ箇所ハ八万七千  
三百二十九箇ニシテ面積ハ七百十五万八千四百六十八  
町一畝五畝十步ナリ其區分ハ用枝林禁伐林ノ兩種ニ大  
別シ更ニ用枝林ヲ分テ一等ニ等ニ等員外ノ四等ニ小別  
シ禁伐林ヲ分テ水源涵養土沙杆支招魚風致等ノ數類ニ  
小別ス其詳ハ官林帳圖ニ明記セルヲ以テ此ニ贅セス  
本局ノ掌管スル土石ハ日本坑法第一章第三類ニ属スル  
耕作建築所用ノ土石ナリトス耕作建築所用ノ土石ハ地  
所ヲ有スル人民ノ私有ヲ許サレタルモノナレハ地質課  
ニ属スヘキノ理ナキヲ以テ普通官有地内ナル土石ハ山林  
課第三部ニ属シ官林中ナル土石ハ山林課第二部ニ属  
シタリ

土石

官地

官地ノ貸渡拂下ハ官ノ都合ニヨルモノナルカ故ニ第三

部ニテ之ヲ掌ル蓋官地ノ賃渡拂下ハ切ニナスヘキモノ  
 ニアラス然レ氏官地ヲ棄擲荒蕪セシムルハ最不可ナリ  
 トス故ニ事情ニヨリテハ之ヲ許可スルヲ慣例トス若シ  
 夫レ官林ニ関スルモノハ第二部ニ於テ之ヲ管理ス  
 官林作業ノ設ハ官林繁殖ノ為メ老樹ヲ洗伐販賣シテ其  
 費用ニ供スルノ業ナリトス其主旨タル直轄官林ハ勿論  
 其他ノ官林トイヘトモ老樹アレハ之ヲ伐リ密條アレハ  
 之ヲ洗ヒ之ヲ保護又ハ改良シ及ヒ從前無木ノ地ニ造林  
 レ間接ニアリテハ氣候ヲ調ヒ水源ヲ養ヒ土沙ヲ支ヘ風  
 潮ヲ防キ直接ニアリテハ家屋舟車橋梁器械ノ需用ニ供  
 スルヲ謀ルニアリ  
 本末本局官林ノ事務ヲシテ總テ直轄ニ屬セシメ又總テ  
 作業ニ歸セシメハ山林課ノ外更ニ作業課ヲ置クヲ要

セストイヘトモ未メ其場合ニ至ラサルカ故ニ事業ニ直  
 轄間轄ノ別アリ費途ニ定額作業ノ別アリ故ヲ以テ已ム  
 一ヲ得ス山林課ノ外更ニ官林作業課ヲ設ケシナリ其山  
 林課第二部ノ外更ニ官林作業課植樹掛ヲ置クモ亦此理  
 ニ出テス  
 官林作業ノ事務ハ分テ殖樹伐木運材運船出納ノ五掛ト  
 ス夫レ作業課分掌ノ如キ本末ノ所見ハ本局ニ於テハ殖  
 樹伐木運材ノ區分ヲ施行スルモ出張員ニ至リテハ一員  
 ラシテ三事ヲ兼シメレテ希望セリ然リト虽本邦官林  
 吏員ノ如キハ山林學校ノ教授ヲ經タルモノニアラサル  
 カ故ニ暫ク三務ヲ分掌セシメ以テ官林吏員事務習熟ノ  
 日ヲ待ントス  
 殖樹ノ業ハ直轄未直轄ノ別アリトイヘ氏即今直轄ニシテ



官吏ヲ派出スル者四縣未直轄ニシテ官吏ヲ派出スル者二府二十九縣未タ吏員ヲ派出セサル者一府二縣ナリ而シテ官吏派出地ノ苗圃ヲ設ケシ者四十五ヶ所官林播實ヲサセシ者ニヶ所林地植苗ヲサセシ者六十九ヶ所官林ヲ手入セシ者五十一ヶ所ナリ更ニ本年度ニ於テ植樹セシ總額通計スルニ其實數ハ三十七石二斗七升ニシテ苗數ハ二百七十三万五千四百本ナリ(西原試驗場ニ播種シタルモノハ此内ニ算入セズ)之ヲ十年度ニ比スレハ實ニ許多ノ増加ナリトス是他ナレ前年ハ經費五万圓ノ特加アリシモ作業事務ヲ創起セラレタルヲ以テ此一事ヲ以テ之ヲ見モ作業ノ山林ニ益スルヤ小少ニ非ルヲ見ルヘキナリ 第七圖 第八圖 見合

一等伐木ノ業タル明治十一年ニ着手セシ 第九圖 見合 木曾ノ

出張員ハ既ニ復命セリトイヘ凡ハ飛驒青森秋田高知ノ出張員ハ未タ復命セズ十二年ニ着手スヘキ 第十圖 見合 木曾青森秋田志田山ノ出張員ハ未タ派出セシムルヲ能ハス明治九年ヨリ着手セシ門折伐木事業ノ如キ初段ハ既ニ東京ニ達シ中部ハ猶掛須賀ニアリ後段ハ猶遠州氣多ニ假積セリ若シ夫レニ三等伐木ニ調査未濟ナルコト故ニ他日ノ確報ヲ期セサルヲ得サルナリ

運材ノ事業タル後未ニ漸次増加シテ一ニ三等ノ別ヲ立テ貯木所ヲ設ルノ見込ナリトイヘ凡即今ハ東京大阪桑名白鳥秋田青森六ヶ所ニ於テ無等ノ貯木所各一ヶヲ設ケテ官員ヲ派出セリ 第十一圖 見合 而シテ濃州錦織ニ於テ更ニ綱場ヲ設ケタリ綱場ハ伐木ト運材トニ於テ大ナル關係ヲ有ス他濃州益田川及其他諸川ノ年々伐木者

手ヲナスケ所ハ皆此設ヲ推及セント欲スルモ未ツ其操  
會ト餘裕トヲ得サルナリ

運船ノ業タル從前總テ運材掛ニ委任シ民船ヲ備ハシメ  
シニ木材運輸ノ不便ナルヲ以テ更ニ風走船ヲ購求スル  
ノ許可ヲ得既ニ英船ジングラヲ購求スルノ許可及川崎  
正藏ニ命シテ更ニ一艘ヲ新造セシムルノ許可ヲ得タル  
カ故ニ現ニ其談判ニ取掛レリ

出納

出納ノ業ハ作業費ニ係ル一切ハ出納ヲ統轄ス其簿記ノ  
如キ明治十一年度ヨリ總テ西洋複記法ヲ用シテ欲レ  
現ニ之ニ着手セリ然レモ出納掛原簿ノ外ハ一時ニ改ム  
ルヲ能ハサルヲ以テ漸次ニ之ヲ改メシテ之ヲ冀望セリ  
官林作業ノ現況ハ粗前文ニ析述シタルカ如ク著手以來  
幸ニシテ大蹉跌ヲ生セサルノミナラス材價ノ騰貴ニヨ

作業現況

リ却テ意外ノ収入ヲ如ヘ殖樹運船ノ如キハ現ニ客歲作  
業開設前ノ目的ヨリ意外ノ進歩ヲ表シタリ如シ夫レ今  
日ノ正鵠ヲ誤ラサラシメハ後來必ス我カ内務卿ノ威意  
ヲ奉シ山林改良ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘシト確信セリ

後永  
目的

官林後來ノ目的

以上既往現今ノ林務景況ヲ歴叙シタルカ故ニ將ニ后永  
ノ方向ニ擴及セントス夫レ本邦山林ノ景況ハ我カ國歩  
ト同シク未タ旺盛ノ極ニ達セスト雖其進步セントスル  
ノ景況ハ之ヲ未タ就學セサルノ俊髦ニ譬フ學術未タ成  
ラスト雖才質秀美年齒少壯後來ノ成立殆ヲ屈シテ待ツ  
ヘキカ如シ何トナレハ其土ハ寒暖中ヲ得テ冷熱二帶ノ  
樹皆以播種スヘク其地ハ膏腴ニシテ針澗兩種ノ木地ト  
シテ繁茂セサルナシ且ツマ溪澗山ニ浴テ陸運極テ便ニ  
海洋陸ヲ囿ンテ水運亦便ナリ之ヲ造化主持ニ本邦ヲ罷  
スルニ一大樹林ヲ以テスト云フ蓋誣言ニアラサルナリ  
唯恨ラクハ既往木材ノ需用極メテ虧ナク山林ノ保護極  
メテ宜シキヲ失セシカ故ニ其丁歩ハ特ニ官有ノ山林ノ

ミヲ調フルモ猶全國四分ノ一七百餘萬町歩ノ多キヲ有  
ス而シテ其立木ハ拾五億七千。貳拾貳萬三千本余立竹  
三億。八百五拾七萬五千本余合計拾八億七千八百七拾  
九萬九千本余ニ過キス是ヲ壹町歩ニ配當スレハ貳拾六  
本貳步余是ヲ壹畝歩ニ配當スレハ貳本六步余ニ過キス  
豈遺憾ナラスヤ然レモ若シ能ク播種保護ノ道ヲ盡サハ  
其良材ヲ致ス事疑ヲ容レサルヲ信スルナリ然ルニ地理  
局中ニテ山林課ニ充ツルノ經費ハ總カ貳三萬圓餘ニシ  
テ其作業費モ又拾萬圓ニ過キス是レ山林課ノ為メニ居  
常痛嘆大息ヒシ處ナリ  
嘗テ歐洲各國官林每壹町歩ノ收益ヲ調フルニ佛國ハ洋  
銀六弗九拾七錢九四余澳國ハ  
魯國ハ洋銀拾錢。五余葡國ハ洋銀五拾錢。七壹余

索國ハ

サキソノ國ハ五弗餘ニ登レリ然ルニ本邦官林ノ現收益  
ハ壹町歩邦貨四錢六厘四毛明治十一年山林作業收入豫  
算及十一年山林稅外收入總額  
トテ合ス稅外收入總額ノミ持ニ十一年豫算ヲサレ  
ハ本局ニテ知リ得ヘカヲヤルヲ以テナリ  
ニ上ルヲ能ハサルナリ嗚呼地味氣候海陸運輸本邦皆歐  
州諸國ニ超越ス而シテ其收益獨リ歐洲各國ニ及フ能ハ  
ス抑フニ以ヘアルナリ今ヤ本邦山林ノ經費定額作業ヲ  
合ヒテ拾九萬五千餘圓ニ過キス十一年豫算之ヲ壹町歩ニ  
配當スレハ貳錢七厘五毛ナリ嘗テ佛國官林ノ統計ヲ閱  
ヒシニ其面積ハ我百拾四萬六千貳百貳拾三町餘ニシテ  
其經費ハ貳百三拾六萬七千弗餘ナリ之ヲ壹町歩ニ配當  
スレハ二弗。六錢五六ナリ若シ此比例ヲ以テ本邦官林  
ニ配當スルハ宜シク千四百四拾五萬九千貳百六拾圓  
ヲ要スヘシ果シテ千四百四拾五萬九千貳百六拾圓ヲ得

事務

ハ官林ノ改良易々タルノミ唯其速ニ行フヘカラサルヲ如何セン然レモ論シテ是ニ至レハ經費ノ増加ニ論及セサルヲ得サルナリ往年前内務卿嘗テ此ニ憂フルアリ前嶋少輔大隈大藏卿ト謀リ作業法ヲ創設セラレ伊藤内務卿亦益之ヲ皇張シ遂ニ為メ一局ヲ創置セラル、ニ至レリ然レモ經費額限リアリテ其責重ナル目的ノ未々十分ニ達セサルハ實ニ無限ノ遺憾ナリ

然レモ主任者ニ於テハ早晚我内務卿閣下ノ盛意必ス透達スヘキヲ信スルカ故ニ坐卧林務皇張ノ事ニ注意セリ今其概目ヲ掲列スレハ則チ左ノ數目ナリ

官林ヲ直轄ニ歸スル事

林區ヲ改正スル事

官林官吏ヲ増置スル事

後來繁殖洗伐輪伐ヲ施行スル事

後來ノ收利ヲ豫測スル事

後來ノ經費ヲ豫測スル事

今ヤ右順次ニ從テ之ヲ説下スヘシ然レモ一箇ノ先ツ開口提舉セサルヘカラサル者アリ大凡天下ノ事何物カ勞費ヨリ生レサルモノアラン況ヤ作業事項ノ如キ最モ勞費ニ大關係ヲ有スルカ故ニ最收入支出ヨリ説キ出サ、ルヘカラサルカ如シ然レモ大凡事ヲ為ス必ス先ツ其意匠ヲ定メテ然ル後其勞費ヲ算ス林務何ソ獨リ然ラサラン故ニ先ツ大体ヲ陳シテ而シテ後收入支出ノ二項ニ及ハサルヲ得サルナリ

官林ハ決シテ人民ニ任スヘカラス既ニ人民ニ任スヘカラス則亦地方官ニ任スヘキニ非サルナリ試ニ着ヨ王政

官林直轄

復古以前幕府ハ山林奉行ヲ置テ林務ヲ代官ニ委テス諸藩モ亦山林方ヲ置テ林務ヲ郡吏ニ委セサリシニアラスヤ然シ是本邦ノミ然ルニアラス歐洲政府モ佛國ヲ余ノ佛國モ素山林ヲ以テ政府ノ直轄ニ歸セシニ政府一變ノ際民議ノ為ノ速ニ之ヲ各邑ニ分付セリ

ノ外皆現ニ政府ノ直轄ニ屬シ歐洲學士モ亦皆官林ハ政府ノ直轄ニ歸セサルヘカラサルモノト断定スリ博士レソツスロツセル兩氏ノ説簡ニシテ盡セリ請フ之ヲ掲擧センレンソツス氏曰必ス政府ノ直轄ニ歸スヘキ者ハ其レ唯山林ノ業乎ロツセル氏曰嗟呼山林ノ業ノミ幾年ノ後ニ至リ人民ノ自由ニ委スヘキカ余ハ之ヲ豫言スル能ハスト夫レニ氏ハ經濟學士ノ自由ヲ主議トスルモノナリ而シテ其言是ノ如シ何ソ後輩ノ多言ヲ要セン若シ官林ノ改良ヲ望マハ直轄ヲ以テ先務トナサハルヘカラスト

林區改正

思考セリ

本邦今日林區ノ制分レテ三等タリ而シテ其個數及面積ノ平均ハ即左ノ如シ

區	數	積
大區	六	一九三〇七八
中區	四八	一四九一三四
小區	二一六	三三二〇一〇

然ルニ其所謂小區ナルモノ猶廣大ニ過キタリトイヘ氏更ニ林部ヲ置テ之ヲ統フ事猶蹉躓ナシ大區ニ至リテハ至廣至濶壹人ニテ擔當シ難キモノアリノ創業多事ノ際一利ヲ起シ一害ヲ除ラハカ由テ歐洲各國ノ比例ヲ歴閱スルニ左ノ如シ

小區積平均	中區積平均	大區積平均	小區數	中區數	大區數	總林積	
二二六、七二	四、五、六、六	一、二、三、九、九、六	五、五、六	一、二、三	八	三、三、二、六、九、八	澳國
七、七、九、九、二、八	四、九、九、九、三	一、二、三、七、五、一、八	三、九、九、九	六、八、七	三、〇	三、八、九、九、九、〇、〇	宇漏生
六、三、三、一、一、五	一、八、七、五、六、六、六	九、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、六、〇、五	五、二、六	二、三	九、〇、〇、〇、〇、〇、〇	ベニエレン
六、六、六、六、六、六	九、九、九、九、九、九	一、二、三、四、五、六、七	五、八、四	一、六、〇	五	九、九、九、九、九、六	ケニエレン
一、二、三、四、五、六	六、六、六、六、六、六	一、二、三、四、五、六、七	二、三、八、一	一、〇、七	一	一、二、三、四、五、六	バーデン
一、二、三、四、五、六	一、二、三、四、五、六、七	一、二、三、四、五、六、七	三、四、七	一、二、九	一	一、二、三、四、五、六、七	サクセン
一、二、三、四、五、六	五、六、七、八、九、〇	一、二、三、四、五、六、七	八、二、〇	六、三	二	五、六、七、八、九、〇	エニエレン
一、二、三、四、五、六	一、二、三、四、五、六、七	一、二、三、四、五、六、七	六、八	七、九	五	一、二、三、四、五、六、七	イニエレン
一、二、三、四、五、六	一、二、三、四、五、六、七	一、二、三、四、五、六、七	六、六、六	七、〇	三	一、二、三、四、五、六、七	ヘフレン

是ニ由テ之ヲ按スルニ其大區ハ大ナルモ拾七萬町余若シクハ拾貳萬町余ニ上ラス小ナルハ則四萬余町若シクハ三萬余町ニ下リ中區ノ大ナル五千余町小區ノ大ナル千六百余町ニ過キス而シテ本邦ノ大區八百十九萬三千〇七拾八町余中區ハ十四萬九千百三拾四町余小區ハ三

萬三千百四拾壹町余ニ上レリ是安ソ改正セサルヘケンヤ之ヲ改正スル如何現今ノ大區ハ林部ト改稱シ特ニ本局官林課中ノ區分トシ地方ニアリテハ現今ノ中林區ヲ大林區トシ小區ヲ中林區トシ林部ヲ小林區トセハ必ク至便ナルモノアラン由テ試ニ林積ニヨリテ之ヲ概算スルニ左ノ如クナラハ必適當セン

區	數	概積	一區ノ統轄中區	一區ノ統轄小區
大區	四八	一五、〇、〇、〇、〇、〇、〇	五	五〇
中區	一、一、〇、〇、〇、〇、〇、〇	三、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇		一〇
小區	二、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇		

然レ氏右ハ唯面積平均上ニ於テ積リタルモノナルカ故ニ必ス實地ニ適應セス現ニ歐洲諸國大中小區ノ如キ其平均ハ前文ニ掲ケタルカ如レト雖氏實地ニ至テハ至大

官吏  
増置

アリ至小アリ是レ實際上免ルヘカラサルモノナルカ故  
 一實際上ニ至リテハ適當斟酌セサルヲ得ナルナリ  
 官林管轄既ニ改マリ林區亦革マル官吏ノ増置ヲ以テ先  
 務トナサ、ルヘカラサルナリ何ヲ以テ之ヲイフ蓋レ植樹費不  
 且アルモ其害新植樹ヲ得ルヲ能ハサルニ由リテ現在木ヲ損  
 スルニ至ラス手入費ノ不且アルモ其害現在木ヲレテ良好ナ  
 ラレムル能ハサルニ留リテ現在木ヲ全失スルニ至ラス官吏ノ不  
 且ニ至テハ盜伐公行放火過メ難ク其極現在木ヲ拳テ鳥有  
 ヲ免レサラシムルニ至ルヲ以テナリ然ルニ本月本日ニ  
 於テ林務ニ從事スル判任以下ノ總負ヲ統計スルニ

判任及準判任 等外及準等外	八三
雇	二四
助手	一三九
巡視	一六
監守	一

合計

六六六

ニ過キス豈歎スヘキノ甚レキニアラスヤ故ニ先ツ官林  
 ヲ直轄ニ歸セラレントテ願ヒ又林區ヲ改良セラレント  
 ヲ願ヒ次キニ官吏ノ増布セラレントテ祈ルナリ蓋既ニ  
 大區ヲ置ク大區長ナカルヘカラス中小區ヲ置ク中小區  
 長ナカルヘカラス然レハ大凡事ヲ為ス小ヨリ大ニ入り  
 卑キヨリ高キニ達セントテ欲ス故ニ山林官吏モ亦寡ヨ  
 リ衆ヲ致サントテ欲ス故ニ後未官吏配置ノ斷見ハ小林  
 區ニハ監守ヲ置キ中林區ニハ巡視ヲ置キ特ニ大林區ニ  
 吏員若干ヲ置キ適宜中小林區ノ事ヲ分掌センメテ収入増  
 加ヲ待テ後六十一年ニ至リテ中林區擔負ヲ創置  
 七十一年ニ至テ二小林區ニ一擔當負ヲ創置レ八十二年  
 ニ至リ一小林區ニ一擔當負ヲ創置レ漸次事業ト共ニ之





林	中										小計	
	八田備	十田備	十寺属	九寺属	八寺属	七寺属	六寺属	五寺属	四寺属	三寺属		
大	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
小	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
年	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
度	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

區	中										小計	
	八田備	十田備	十寺属	九寺属	八寺属	七寺属	六寺属	五寺属	四寺属	三寺属		
大	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
小	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
年	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
度	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
計	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

若シ他人ヲシテ前表ヲ見セシメハ必ス其数ノ過クテ怪  
 コシ然レ氏右ニ萬九千七百餘人ノ内一萬四千四百餘人ハ  
 年額三田ヲ給スル監守人ニシテ其他官吏ト称スヘキ者  
 ハ一萬五千三百餘人ニ過キス嘗テ佛國山林官吏ノ配置  
 フ調ヘシニ其数年額百廿田以上ヲ給セラル、モノ四十  
 三百廿五人ナリ由テ其例ニ倣ヒ本邦官林ノ面積ニ配当  
 スレハ宜シクニ萬七千。六十四人ヲ要スヘシ其概數ハ

左ノ如シ

佛國	林長	山官林	山視林	山守林	合計
佛國ノ例ニヨリ官吏ヲ 本邦ノ林積ニ配當ス	三五	三八八	三五一	三五五二	四三二六
	二一八	二四二三〇	二一九二〇	二二二二一〇	二七、〇六四

右ノ比例ニヨレハ前表ニ記シタル數ハ決シテ過クニア  
ラサルナリ

現今全國ノ官林ヲ統計スルニ其數無慮七百二十拾萬町餘  
ナリ而シテ之ヲ概折スレハ分レテ三類タリ甲ハ有用有  
價ノ用材薪炭ヲ現生スル者ナリ其概算蓋二百萬町ニ出  
テサルヘシ乙ハ近便ニシテ不毛ナルモノ及立木アルモ

官林  
及後  
及後  
及後

木質不良ニシテ價ナキモノナリ其概算亦二百萬町ニ下  
ラサルヘシ丙ハ荒蕪不毛ナルモノ深奥ニシテ利益ヲ生  
セサル者及各種ノ禁伐林ナリ其概算蓋三百萬町ニ下ラ  
サルヘシ噫木材需用ノ切ナル未タ今日ヨリ甚シキモノ  
アラス然リ而シテ甲種ハ二百萬町ニシテ乙丙種ハ五百  
萬町ニ上レリ豈歎スヘキニアラスヤ故ニ今日ノ整メカ  
ヲ尽シテ甲種二百萬町ヲ保護輪伐シ乙種二百萬町ヲ新  
殖洗伐シ漸次丙種三百萬町ノ繁殖改良ニ着手セサルヘ  
カラサルナリ請フ之ヲ分説セン

一甲種二百萬町ハ目今現ニ有用有價ノ用材薪炭ヲ  
生シタルモノナリ今之ヲ概別シ百萬町ヲ用材林  
トシ百萬町ヲ薪炭林トス  
用材林百萬町ハ其中ニ就キ有名ナル良材ヲ擇ビ

子  
務  
省

テ之ヲ保存林トシ其他ヲ分テ百五十年ノ輪伐ヲ  
ナスモノトスヘシ

薪炭林百萬町ハスヘテ分テ二十年ノ輪伐ヲ為シ

允薪炭ノ輪伐ハ十年ヲ度トス今  
一歩ヲ退キ二十年ヲ以テ之ヲ算ス新陳交換無尽ナラシムヘシ

其伐址ノ如キハ務メテ之レヲ繁殖スヘシ其策如

何土地ノ肥美近便ナルモノハ之ニ人殖シ其他ハ

之ヲ天殖ニ委シ人カヲ以テ之ヲ扶クルノミ人殖ハ

人カニテ苗實ヲ播種スルモノヲ云  
天殖トハ自然ニ生木セシムルモノヲ云

一乙種二百萬町ハ土地近便ニシテ目今不毛ナルモ

ノ及立木アルモ木質不良ニシテ價直ナキモノナ

リ今之ヲ概別シ百萬町ヲ用材ヲ仕立ヘキ土地ト

ナシ百萬町ヲ薪炭ヲ仕立ヘキ土地トス

用材ヲ仕立ヘキ百萬町ハ其中ニ就キ三十萬町ヲ

人殖シ七拾萬町ヲ天殖スルモノトス而シテ人殖

三十萬町再ヒ分テ四種トナシ五萬町ハ毎三十年

ニ總伐スヘキ樹木遠州松五萬町ハ五十年ニ總伐

スヘキ樹木播州松拾萬町ハ百年ニ總伐スヘキ樹木曾木

檜秋田杉ノ類拾萬町ハ百五十年ニ總伐スヘキ樹木加子母檜衣川

松ノ類ヲ苗植スルモノトス若シ夫レ天殖ハ百年ニ總伐

スヘキ樹木門折山秩父山ノ類ヲ自然ニ生木セシムルモノ

トス

薪炭ヲ仕立ヘキ百萬町ハ其中ニ就キ三十萬町ヲ

人殖シ七十萬町ヲ天殖スル者トス其人殖ハ多ク

實植ヲ用ヒ天殖ハ自然ニ生木セシムルヲ要ス

一兩種三百萬町ハ荒蕪不毛ナルモノ又ハ深奥ニシ

テ利益ヲ生セサルモノ及各種ノ禁伐林ナリ其産

乙種繁殖五年表  
ノ字ヲ脱ス

甲種繁殖五年表  
ノ字ヲ脱ス

乙												種												乙											
材						用						炭						薪						材						用					
植天		植		人		植天		植		人		植天		植		人		植天		植		人		植天		植		人							
合	計	小	大	小	大	中	小	大	小	大	中	小	大	小	大	中	小	大	小	大	中	小	大	小	大	中	小	大	中	小					
九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
七	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					
一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二					

ナル一表ヲ掲ケテ之ヲ明示セサルヲ得サルナリ

或ハ利ヲ規ルヘカラス或ハ利ヲ規ルニ足ラカ  
者アリ然レ氏或ハ之ヲ播種シテ風致ヲ助ケ季似  
ヲ調シ水源ヲ養ヒ土砂ヲ支ヘ又菌草皮根等ヲ采  
リ樹脂木液等ヲ収メハ縱令主産ノ収獲ナキモ或  
ハ副産ノ収獲アリ直接ノ利益ナキモ必ス間接ノ  
利益アリ故ニ之ヲ以テ急務トナスヘカラスト虫  
亦漸ヲ以テ着手セサルヘカラサルナリ  
一右三種ノ繁殖ハ決シテ一時ニ着手スヘカラズ  
益ノ増加ト共ニ皇張セサルヘカラサルナリ然レ氏大  
允事ヲ為ス期限ナカルベカラス故ニ右甲乙二種  
ノ改良及繁殖ハ百年内ヲ限リテ之ニ着手セン  
ヲ欲ス甲種改良ノ如キハ掲録ヲ必セストイヘ氏  
乙種繁殖ノ年度及林積木數ニ至テハ今左ニ簡明

内務省

種	薪		炭	
	大	小	天	小
	計	計	計	計
總計	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
一	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
二	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
三	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
四	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
五	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
六	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
七	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
八	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
九	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇
十	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇

夫レ繁殖ナルモノハ主トスル所播種栽培ニアリトイハ  
氏過密ヲ洗伐レテ氣候ノ流通ヲヨクシ至繁ヲ節レテ土  
地ノ養カノ得セシメサレハ却テ山林ノ繁殖ヲ害ス況ヤ  
植テ而シテ伐用セサレハ樹木ヲ繁殖セサルニ如カス故  
ニ山林ヲ繁殖レ樹木ヲ伐用セント欲セハ山林洗伐ニ論  
及セサルヘカラサルナリ

一甲種貳百萬町ノ内用材林百萬町ハ其中ニ於テ景  
良林凡廿五萬町ノ除キ其他七拾五萬町ヲ百五拾  
二分ノ毎毎貳千五百町ツ、ヲ輪伐レ  
是町步八十本トス  
ルモ此木數二十万本  
随テ伐リ隨テ生セシム薪炭林百萬町ハ分テ貳拾

トナシ毎年五萬町ツ、ヲ輪伐スヘシ  
一乙種二百萬町ノ内用材林ハ百萬町ニシテ人殖小  
木林五萬町ハ三十年ヲ以テ之ヲ輪伐レ中木林五  
萬町ハ五十年ヲ以テ之ヲ輪伐レ大木林拾萬町ハ  
百年ヲ以テ之ヲ輪伐レ大々木林十萬町ハ百五十  
年ヲ以テ之ヲ輪伐レ若シ夫レ天殖大木林十拾萬  
町ハ百年ヲ以テ之ヲ輪伐スヘシ然レ其間木ノ  
少壯ナルモノハ植後十年ニシテ茅一次洗伐ツ為  
ニ爾後五年毎ニ洗伐セサルヘカラス其數タル初  
ノハ多數ヲ洗伐レ漸次之ヲ減シ最尾ニ至テ總伐  
セサルヘカラス薪炭林百萬町ハ分レテ天殖七拾  
萬町人殖三拾萬町タリ人殖三百三拾萬町ハ分  
十箇トナシ近便良温ノ地ヲ擇十年毎ニ之ヲ輪伐

輪伐洗伐別表 洗伐木數表

種 甲										種 乙														
薪					材					薪					材									
小計	人	計	小計	天	小計	種	材	中	小	小計	天	小計	種	材	中	小	小計	天	小計	種	材	中	小	
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

至多至大ナルカ故ニ或ハ混淆ヲ失セシヲ恐ル由テ一  
 今丙種ヲ以テ之レヲ不 論キ宜クモ 甲乙二種ノ 林積込  
 表ヲ製セラシ之レヲ左方ニ 掲ス  
 伐木スヘキカ故ニ此ニ贅セス  
 一丙種三百萬町ハ伐採ヲ以テ目的ト為スモノニア  
 ラス故ニ經費ハ都合ニヨリ適宜ニ播種シ適宜ニ  
 フヘカヲサレ十五年コトニコレヲ輪伐スヘシ  
 長ノ薪炭林ハ其保護宜シカラカ故ニ木ニ大小  
 輪伐トス乙種ノ薪炭林ハ然ラス故  
 一人殖十年天殖十五年ノ輪伐トス

種 甲		種 乙	
薪	材	薪	材
...	...	...	...

収入

甲用材	表	
	種	
	天植	天植
自百年	至九十九年	至九十九年
自八十九年	至八十八年	至八十八年
自八十八年	至八十七年	至八十七年
自八十七年	至八十六年	至八十六年
自八十六年	至八十五年	至八十五年
自八十五年	至八十四年	至八十四年
自八十四年	至八十三年	至八十三年
自八十三年	至八十二年	至八十二年
自八十二年	至八十一年	至八十一年
自八十一年	至八十年	至八十年
自七十九年	至七十八年	至七十八年
自七十八年	至七十七年	至七十七年
自七十七年	至七十六年	至七十六年
自七十六年	至七十五年	至七十五年
自七十五年	至七十四年	至七十四年
自七十四年	至七十三年	至七十三年
自七十三年	至七十二年	至七十二年
自七十二年	至七十一年	至七十一年
自七十一年	至七十年	至七十年
自七十年	至六十九年	至六十九年
自六十九年	至六十八年	至六十八年
自六十八年	至六十七年	至六十七年
自六十七年	至六十六年	至六十六年
自六十六年	至六十五年	至六十五年
自六十五年	至六十四年	至六十四年
自六十四年	至六十三年	至六十三年
自六十三年	至六十二年	至六十二年
自六十二年	至六十一年	至六十一年
自六十一年	至六十年	至六十年
自五十九年	至五十八年	至五十八年
自五十八年	至五十七年	至五十七年
自五十七年	至五十六年	至五十六年
自五十六年	至五十五年	至五十五年
自五十五年	至五十四年	至五十四年
自五十四年	至五十三年	至五十三年
自五十三年	至五十二年	至五十二年
自五十二年	至五十一年	至五十一年
自五十一年	至五十年	至五十年
自四十九年	至四十八年	至四十八年
自四十八年	至四十七年	至四十七年
自四十七年	至四十六年	至四十六年
自四十六年	至四十五年	至四十五年
自四十五年	至四十四年	至四十四年
自四十四年	至四十三年	至四十三年
自四十三年	至四十二年	至四十二年
自四十二年	至四十一年	至四十一年
自四十一年	至四十年	至四十年
自三十九年	至三十八年	至三十八年
自三十八年	至三十七年	至三十七年
自三十七年	至三十六年	至三十六年
自三十六年	至三十五年	至三十五年
自三十五年	至三十四年	至三十四年
自三十四年	至三十三年	至三十三年
自三十三年	至三十二年	至三十二年
自三十二年	至三十一年	至三十一年
自三十一年	至三十年	至三十年
自三十年	至二十九年	至二十九年
自二十九年	至二十八年	至二十八年
自二十八年	至二十七年	至二十七年
自二十七年	至二十六年	至二十六年
自二十六年	至二十五年	至二十五年
自二十五年	至二十四年	至二十四年
自二十四年	至二十三年	至二十三年
自二十三年	至二十二年	至二十二年
自二十二年	至二十一年	至二十一年
自二十一年	至二十年	至二十年
自二十年	至十九年	至十九年
自十九年	至十八年	至十八年
自十八年	至十七年	至十七年
自十七年	至十六年	至十六年
自十六年	至十五年	至十五年
自十五年	至十四年	至十四年
自十四年	至十三年	至十三年
自十三年	至十二年	至十二年
自十二年	至十一年	至十一年
自十一年	至十年	至十年
自十年	至九年	至九年
自九年	至八年	至八年
自八年	至七年	至七年
自七年	至六年	至六年
自六年	至五年	至五年
自五年	至四年	至四年
自四年	至三年	至三年
自三年	至二年	至二年
自二年	至一年	至一年
自一年	至零年	至零年

前條ノ如ク漸次ニ繁殖ニ着手スル片ハ亦漸次ニ洗伐ヲ  
 ナシ得ヘシ然ル片ハ其収利モ亦隨テ漸次ニ生スヘシ今  
 前條ニ記掲セシ乙種洗伐木竹ノ収利ヲ算スルニ當リ小  
 木ノ為メニハ四谷州武秋葉遠ノ収利ヲ調ヘ竹林ノ為メニ  
 八小田原州相桂川都等民林ノ収利ヲ調ヘ且ツヤ官林ノ位  
 置保護皆民林ニ如カサル者トシ又其賣買モ壟斷牟利ヲ  
 要セサルヲ以テ幾分カ低下スルモノトシ幾分ヲ減シテ  
 之ヲ算シ甲種ノ洗伐竹木ニライテモ時價ヨリ幾分ヲ減  
 シタル明治十一年及十二年ノ豫算ニ基キテ之レヲ算ス  
 ルモ猶左ノ収入アルヘキヲ信スルナリ

種	表	
	種	
	薪炭	薪炭
自百年	至九十九年	至九十九年
自八十九年	至八十八年	至八十八年
自八十八年	至八十七年	至八十七年
自八十七年	至八十六年	至八十六年
自八十六年	至八十五年	至八十五年
自八十五年	至八十四年	至八十四年
自八十四年	至八十三年	至八十三年
自八十三年	至八十二年	至八十二年
自八十二年	至八十一年	至八十一年
自八十一年	至八十年	至八十年
自七十九年	至七十八年	至七十八年
自七十八年	至七十七年	至七十七年
自七十七年	至七十六年	至七十六年
自七十六年	至七十五年	至七十五年
自七十五年	至七十四年	至七十四年
自七十四年	至七十三年	至七十三年
自七十三年	至七十二年	至七十二年
自七十二年	至七十一年	至七十一年
自七十一年	至七十年	至七十年
自六十九年	至六十八年	至六十八年
自六十八年	至六十七年	至六十七年
自六十七年	至六十六年	至六十六年
自六十六年	至六十五年	至六十五年
自六十五年	至六十四年	至六十四年
自六十四年	至六十三年	至六十三年
自六十三年	至六十二年	至六十二年
自六十二年	至六十一年	至六十一年
自六十一年	至六十年	至六十年
自五十九年	至五十八年	至五十八年
自五十八年	至五十七年	至五十七年
自五十七年	至五十六年	至五十六年
自五十六年	至五十五年	至五十五年
自五十五年	至五十四年	至五十四年
自五十四年	至五十三年	至五十三年
自五十三年	至五十二年	至五十二年
自五十二年	至五十一年	至五十一年
自五十一年	至五十年	至五十年
自四十九年	至四十八年	至四十八年
自四十八年	至四十七年	至四十七年
自四十七年	至四十六年	至四十六年
自四十六年	至四十五年	至四十五年
自四十五年	至四十四年	至四十四年
自四十四年	至四十三年	至四十三年
自四十三年	至四十二年	至四十二年
自四十二年	至四十一年	至四十一年
自四十一年	至四十年	至四十年
自三十九年	至三十八年	至三十八年
自三十八年	至三十七年	至三十七年
自三十七年	至三十六年	至三十六年
自三十六年	至三十五年	至三十五年
自三十五年	至三十四年	至三十四年
自三十四年	至三十三年	至三十三年
自三十三年	至三十二年	至三十二年
自三十二年	至三十一年	至三十一年
自三十一年	至三十年	至三十年
自三十年	至二十九年	至二十九年
自二十九年	至二十八年	至二十八年
自二十八年	至二十七年	至二十七年
自二十七年	至二十六年	至二十六年
自二十六年	至二十五年	至二十五年
自二十五年	至二十四年	至二十四年
自二十四年	至二十三年	至二十三年
自二十三年	至二十二年	至二十二年
自二十二年	至二十一年	至二十一年
自二十一年	至二十年	至二十年
自二十年	至十九年	至十九年
自十九年	至十八年	至十八年
自十八年	至十七年	至十七年
自十七年	至十六年	至十六年
自十六年	至十五年	至十五年
自十五年	至十四年	至十四年
自十四年	至十三年	至十三年
自十三年	至十二年	至十二年
自十二年	至十一年	至十一年
自十一年	至十年	至十年
自十年	至九年	至九年
自九年	至八年	至八年
自八年	至七年	至七年
自七年	至六年	至六年
自六年	至五年	至五年
自五年	至四年	至四年
自四年	至三年	至三年
自三年	至二年	至二年
自二年	至一年	至一年
自一年	至零年	至零年

議者或ハ収入ノ多キヲ見テ洗伐ノ過度ヲ疑ハン然レモ  
 収利ハ勞費ノ報酬ナルカ故ニ勞費多ケレハ収利從テ多  
 ク勞費少ナケレハ報酬從テ少キハ是レ天下ノ通理ナリ



本邦従前ノ官林ハ多ク造化主ニ委シ曾テ人カラ用ヒ  
 ス故ニ木數多カラズ木質良ナラス地味季候ノ適セサル  
 者アリ大小長短ノ齊シカラサルモノアリ故ニ壹町歩ノ  
 地ニシテ良木三拾本ニ滿タス壹町歩三十本即且ツヤ過  
 疎アリ過密アリ屈曲アリ損傷アリ大小アリ長短アリ未  
 タ嘗テ一定セス之レニ加ルニ盜伐アリ放火アリ故ニ現  
 今七百萬町ノ林積アリテ其用材薪炭材アリ能ク世用ヲナ  
 シ能ク利益ヲ生スルモノニ百萬町ニ上ラサルニ至ル即  
 其収入ノ少ナキハ樹木ノ多カラサルト樹木ノ良カラサ  
 ルトニヨルノミ今ヤ然ラス之ヲ植ルハ先ツ其地味ヲ相  
 シ其方向ヲ考ヘ其氣候ノ寒暑ヲ察シ其運輸ノ便否ヲ按  
 シ然ル後苗實ヲ播種シ疎ナレハ則之ヲ補ヒ密ナレハ則  
 之ヲ洗ヒ火災ヲ防キ盜伐ヲ過ノ年度ニ從テ之レヲ伐ル

経費

其利ノ増ス亦宜ナラスヤ古人羊毛ヲ過刈シテ遂ニ羊ヲ  
 瘡セシモノアリ亦羊皮ヲ過吝シテ遂ニ羊ヲ瘡セシモノ  
 アリ二者皆愚ナリ彼ノ山林ヲ過伐スル固ヨリ非ナリ之ヲ  
 過吝スル亦非ナラストスヘカラズ要其適度ヲハカリ之レ  
 ヲ洗伐若シクハ輪伐スルカ故ニ山林益改良シテ収利モ亦  
 從テ倍獲スルノミ是レ普通ノ道理何リ怪ムニ足ランヤ  
 経費ナケレハ収入ヲ生スルナク収入ナケレハ経費何ニ  
 由テカ供セン然ルニ今ヤ既ニ已ニ前条ノ収入アリ安  
 経費ヲ加ヘテ収入ヲ増スヲ謀ラサルハケンヤ由テ作  
 業上ノ経費ヲ按スルニ殖樹伐木以下各課皆多少ノ経費  
 ヲ要スト垂其重ナルモノハ則林区ノ経費ナク今前条ノ  
 繁殖及洗伐輪伐ヲ執行スル目的ヲ以テ毎林区ト総林区  
 トニ要スル所ノ経費ヲ積算スルニ其計數尤ノ如シ



表計	林區			
	中林區	大林區	中林區	大林區
計	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	二、九三三、二二二
中林區	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	二、九三三、二二二
大林區	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇
計	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	二、九三三、二二二
中林區	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	二、九三三、二二二
大林區	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇

右林區ノ總經費ニ加フルニ殖樹本課及伐木運材運船出納ノ諸課ヲ以テスレハ則其需ムル所左

表計		業作		如シ	
計	納	出	計	納	出
七、八七五、四〇八	三、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇
五、八七五、四〇八	三、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇
五、八七五、四〇八	三、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、九三三、二二二	一、二二四、〇〇〇	八、八八〇、〇〇〇

石経費ノ類ヲ見ハ人必ス云ン現今ノ三拾八萬三千余円ハ至少ニシテ第百一年度ノ七百八拾六萬五千余円ハ実

ニ非常ノ巨額ナリト然レモ是レ井蛙ノ見ナルノミ嘗テ歐洲諸國官林ノ經費表ヲ歐洲ニ注文セシニ赤々達セテ暫ク佛蘭西國ノ經費表ヲ案スルニ其林積百拾四萬六千貳百貳拾三町ニシテ其經費ハ洋銀貳百三拾六萬七千六百四拾九弗ナリ右比例ニヨレハ本邦ノ林積七百萬町ハ宜シク千四百四拾五萬圓ヲ要スヘキノ割合ナリ宜ナリ其八百萬弗ノ歳収ヲ得ルヤ人或ハ云ハシ佛國官林ノ歳入ハ實ニ洋銀八百弗ニ上レリ故ニ其經費モ亦洋銀貳百三十六萬七千弗ヲ支出スヘシ今本邦官林ノ歳入三拾貳萬五千圓餘ニ上ラス其經費ヲ増スヘキノ理ナシト余ヲモヘラク是大ニ誤マレリ夫レ佛國ノ官林ニ注意セシハ路易十四世ノ時ヲ初トス爾來數百年多數ノ經費ヲ投シテ怠ラス宜ナリ其収入ノ多キヤ本邦ノ如キ數年前ヲ回

顧スルニ特ニ官林ヲ貴重セサルノミナラス殆ント之レヲ賣盡サンコトヲ謀リタリキ其収入ノ多カラサル職トシテ是ニ之レ由ル安ソ巨額ノ収入ヲ得ヘケンヤ若シ収入少ナキヲ以テ経費ヲ支出セムンハ余恐クハ後來山林ノ益衰微セシコトヲ之ヲ要スルニ一トタヒ費サレハ以テ永ク富ムヘカラス一トタヒ勞セサレハ以テ永ク逸スハカラス今日経費ヲ増スハ則他日収入ヲ増スユヘンノ張本ノミ試ニ見ヨ佛國今日巨多ノ収入ヲ得ルハ則チ昔日以来巨多ノ経費ヲ附與セシ結果ニアラスヤ請フ本邦ト佛國トノ経費収入比較表ヲ挿入詳示セン

		本邦	佛國
總経費	五九三、七五五	二、三六七、六四九、〇〇〇	本邦経費例ヲ以テ佛國ノ経費例ヲ以テ佛國ノ林積ニ配ス 本邦ノ林積ニ配ス
壹町歩ノ経費	二二五	二、〇六六	二七五
			一、四四九、三三〇、〇〇〇
			二、〇六六

總収入	壹歩ノ収入
三、二五二、四二九	四六四
八、〇〇〇、〇〇〇	六、七九七

右ノ比例ニヨルトキハ本邦ヲシテ佛國ノ経費ヲ以テ佛國林政皇張ヨリ今日迄ノ日子ヲ經過セシメハ亦佛國ノ収入ヲ得ヘシ佛國ヲシテ本邦今日ノ経費ヲ以テ本邦今日ノ地位ニアラシメハ亦本邦今日ノ如クナラサルヲ能ハサルヘシ其本ヲ索メスシテ唯其未ヲ論スルハ余ノ知ラサル所ナリ

經濟ノ法固ヨリ入ヲ量テ出ヲ制セサルヘカラストイヘ氏亦出ヲ量テ入ヲ制スルノ意ナクンバマルヘカラサルナリ然レ氏出ヲ量テ入ル制スル往ニ牽強ヲ免レス入ヲ量テ出ヲ制スルハ稍平順ナルニ近シ故ニ收入支出ノ法ハ必ス甲年ノ収入ヲ量リテ乙年ノ支出ヲ制セサルヘカ

収入支出ノ比較

ラサルナリ今右甲年ノ収入ト乙年ノ経費トヲ對照スレハ則左ノ如シ

年	収入	支出	差引
自百一年	八五五、三三三	七八六、五四八	七〇、八八五
自九十年	六三三、〇五五	七八六、〇七二	一五二、〇一七
自八十年	四八九、三三三	四〇九、九六四	七九、三六九
自七十年	三六九、〇三三	二九七、七五三	七一、二八〇
自六十年	二四九、九三三	二〇九、九八二	一四〇、九五一
自五十年	一四四、〇九六	二二九、〇五二	八四、九五六
自四十年	一三三、〇九九	九六、八二二	三六、二七七
自三十年	一九五、三四四	六七、九四四	一二七、三九九
自二十一年	五九六、五七七	六七〇、〇〇四	九二六、五七三
自二十一年	四八、八八三	六五、七五四	一七、八六一
自十一年	四二、六四三	六四、九四四	二二、三〇一

右ノ差引ニヨル時ハ三十一年以上ハ年々多少ノ餘裕アリトイヘ氏一年ヨリ三十年マテノ間八年ニ多少ノ不足アリ今甲年ノ入ヲ以テ乙年ノ出ヲ支ヘントス甲年ノ収入既ニ少ケレハ乙年ノ経費亦從テ減少セサルヘカラサレナリ然レ氏経費不足アレハ収入亦増加セザルベシ故ニ一年ヨリ十年マテハ年々貳拾貳萬貳千九百五拾壹圓ヲ前借シ十一年ヨリ二十年マテハ年々貳拾三萬千八百

五拾壹圓ヲ前借シ二十一年ヨリ三十年マテハ年々七萬。五百貳拾八圓ヲ前借シ三十一年ヨリ以後八年々巨多ノ過金アルカ故ニ漸次之ヲ消却シ消却既ニ畢レハ過金ヲ半分シ半ヲ丙種三百萬町ノ殖樹ニ供シ半ヲ大藏省ニ納付セントテ願フナリ然レ氏余比年ノ經驗ヲ以テ之ヲ察スルニ伐木場年々僻遠ノ地ニ移リ経費年々ニ増加ヲナストイヘ氏木價ノ騰貴亦非常ナル故ニ今日ノ豫算ニ於テハ一年ヨリ三十年ニ至ルマテ年々前掲ノ不足アレヘキカ如シトイヘ氏實際ニ至テハ其不足亦能ク幾分ヲ減殺シ得ヘシト自信セリ

以上ハ今日迄林務措置上ニ於テ後來ノ正鵠トナシタル所ナリ蓋山林ノ業タル數百年ヲ期スル者ナルカ故ニ其着目モ亦遠大ナラザルベカラス故ニ前條ニ記シタル所

或ハ杞人ノ天ヲ憂フルカ如キモノアリ或ハ精衛ノ海ヲ  
填ムルニ似タル者アリ請フ幸ニ之ヲ察セヨ

